

成田

セイリウ

滋賀県議会議員

県議会活動
レポート
2012年冬号

いよいよ

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日頃より、皆様の温かいご支援を賜り、感謝申し上げます。皆様にお支え頂きながら、二期目も引き続き、皆様の声を県政に届けるべく、頑張っております。

さて、昨年は災害の多い年となりましたが、一方で人と人との「絆」の大切さを実感した年でもありました。防災対策だけでなく、生活における安心安全の滋賀を創っていくためには、地域の力が必要不可欠であり、そのために公共の役割をしっかりと考えていく必要があるといえます。

本年も将来世代において、夢や希望が描ける社会を築くため、未来に対して責任を持って政治の役割を果たしていき、これまで以上に「子ども・若者」「環境」「健康」「安心安全」「滋賀の魅力」などへの県政への課題に果敢に挑戦をおこない、笑顔あふれる社会を築いてまいりたいと思います。本年も、皆様方のご指導・ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

滋賀県議会議員 成田政隆



プロフィール

民主党・県民ネットワーク所属

1974年8月15日 大津市生まれ

唐崎小、唐崎中、膳所高卒業
龍谷大学法学部政治学科卒業
同志社大学大学院総合政策科学研究科修了
滋賀県議会議員（大津市選挙区）
文教・警察常任委員会 副委員長
温暖化・流域治水対策特別委員会 委員
民主党滋賀県総支部連合会 青年局長
大津市消防団唐崎分団 団員
唐崎学区体育振興会 常任理事
唐崎学区スポーツ少年団 事務局
大津こども環境探偵団エコーリーダー 幹事
滋賀県トランポリン協会 会長
社団法人大津青年会議所 理事

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎1-3-9
TEL&FAX：077-578-8913
メール：mail@narinari.net
オフィシャルサイト：www.narinari.net

自治体クラウドについて

▼成田
自治体クラウドとは「システムのハードウェア、ソフトウェアなどを自庁舎で保有・管理することに代えて、外部のデータセンターで保有管理をし、ネットワーク経由で利用できるようにする取り組み」である。クラウドはITの世界に大きな変革をもたらしつつあり、費用の高止まりが指摘されてきた自治体の情報基盤の在り方を見直していくためには、クラウドを活用していくことが必要である。「業務改革に目に見える成果」「ヒト・カネの削減効果」「所有から利用で業務負担軽減」「信頼性の向上」など、「効率化を加速し、生み出したリソースを住民向けサービス等に再投資し、地域力の創造」に向けて、大きな効果が出てくるといえる。今後、滋賀県として、自治体クラウドの導入を行っていくべきだと考えるが、知事の所見を？

▼知事
自治体クラウドについては、経費面、業務の効率化、さらには住民サービスの向上など、大きな効果が期待されている。同時に、セキュリティ面あるいは住民情報の取り扱い方など、共同化する場合、自治体間の業務の標準化が必要である。制度面の改善などの課題の解決方法を検討しながら、滋賀県内における自治体クラウド導入について前向きに検討していきたい。

▼成田
災害時におけるクラウドの活用において、バックアップに関しては、高いセキュリティ技術、独自回線によるクラウドが有効であり、さらにクラウドの活用として、統合型地理情報システムGISを利用し、被災者情報データベースの情報と地図情報を重ね合わせ、地域ごとの不明者数を把握し、的確なる捜索活動を行っていくこと、被災者の支援のためのシステムが既存のシステムと連携して運用ができるような仕組みがそれぞれ必要であると考えているが？

▼総合政策部長
バックアップ体制について、今回の東日本大震災における被災地域の状況も踏まえ、「現状の点検」あわせて「データの重要度に応じたルールや、外部データセンターへの分散保管など手法の再検討」を図ってまいりたい。

▼知事
統合型GISについて、災害時の迅速・的確な対応に役立つという面もあり、課題となっている費用対効果の問題が改善される技術革新等の状況を見ながら、改めて検討していきたい。また被災者支援システムについては、被災状況の把握・分析に一層大きな効果があることから、まずは市町の被災者支援システム導入が重要であり、そのうえで、既存システムと連携させることに、自治体クラウドの手法が有効であるのか検討していきたい。



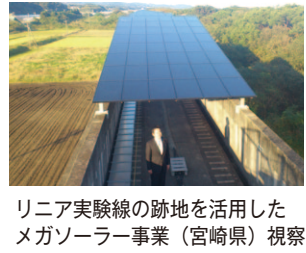
成田セイリウ 活動アルバム



陸上競技場（埼玉県熊谷市）
防災倉庫 視察



スポレクエコとちぎ2011
トランポリン大会



リニア実験線の跡地を活用した
メガソーラー事業（宮崎県）視察



台風15号水害現場
庄内川 視察（愛知県）



県民との意見交換会を
県内13会場で開催

自殺予防について

▼成田
死にいたるまでには、いくつものサインが出ているといわれている。周りの人がいつもと違うなと感じた時には、声をかける。そして、その悩みを聞いてあげることにより、気持ちがかわつてくることといえる。周りの大切な人のサインを見落とさない感性を誰もが高めていく必要がある。本県における自殺対策を推進するための基本的な取り組み方針となる「滋賀県自殺対策基本方針」の評価は？

▼知事
民間の団体、市町とのネットワークを強化することにより、自殺対策の推進体制ができたが、自殺者が増加している深刻な状況は変わっていない。今後、県の自殺対策連絡協議会において基本方針について検証していただき、より実効性のある取組ができるようにしていきたい。

▼成田
20代・30代の死因のトップは残念ながら自殺である。若年層への就労支援やメンタル的な支援を一体的に行っていくことにより、自殺予防にもつながっていくと考えるが？

▼知事
若年無業者の仕事支援が大切だということ、国が滋賀県地域若者サポートステーションを設置。本年度からは、臨床心理士によるメンタル相談をはじめ、就労体験や交流サロンなどの県単独事業に加え、支援の充実を図っている。来年3月には、若年者就業支援機関を一体化しまして、心の悩みなどの相談から就職までの支援をワンストップで提供する「仮称 おうみ若者未来サポートセンター」の開設を予定。

▼成田
厚生労働省は、がん、脳卒中、心筋梗塞、糖尿病の「4疾病」に精神疾患を加えて「5疾病」として、重点的な対策を進めていくことを決定。滋賀県において、精神疾患にかかわる環境をさらに充実していくことが重要であると考えているが？

▼知事
本県においても、精神疾患への対応が県の保健医療行政の重大なテーマであると認識し、来年度、保健医療計画策定の中で、一般科と精神科の連携などの対応を盛り込み、疾病の早期発見と精神障害への早期支援を掲げ、保健医療と生活支援の両面で精神疾患にかかわる環境の充実を図っていく。

▼成田
いのちの電話の活動の評価は？

▼知事
深い悩みを抱えた方々の命を守る善意の活動として、大変大きな役割を果たしている。ただいている。

▼成田
自殺は、様々な要因が複雑に絡んでいるとともに、「心理的に追い込まれた末の死」とあるといわれている。県としても、精神疾患対策や多重債務問題、産業保健との連携等、部局横断で様々な取り組みが必要であり、自殺対策にかかわる担当室の設置が必要であると考えているが？

NPO法人 滋賀いのちの電話

悩みを持つ多くの人々の友となり、相談相手になるために2008年8月10日に開局されました。現在は毎金曜日・土曜日・日曜日、10時～22時の12時間、電話相談を受け付けておられます。かけてこられた方の相談内容をよりよく聴くために、相談員の養成研修、継続研修を実施されておられます。相談員およびその他運営等に関わっている全ての者は、厳格な守秘義務を守って活動をされています。



自殺予防 電話相談
077-553-7387
毎週 金曜日・土曜日・日曜日
10:00～22:00
▶ 名前は いりません
▶ 相談は 無料です
▶ 秘密は 必ず守ります

